

⑨ 内浦山県民の森

清澄山系の南東に位置し暖地性植物をはじめ多くの野生動物が息

【概要】 南房総、清澄山系の南東に面した294^{ヘクタール}の森。ウラジロガシやスタジイ、アラカシ、ヤブニッケイなどの常緑照葉樹に覆われ、暖地性植物も多い。林道奥谷線沿いは、安心して歩けるセラピーコースで、6月のヒメボタルや多くの野鳥動植物が見られる。宿泊施設・会議室等が完備。

【森林の見所・歴史文化】

明治百年を記念して作られた千葉県初の県民の森。この辺りは暖温帯林のほぼ中間に位置しているが、海岸に近く、黒潮の影響を受けているため、暖地性の植物が比較的多く分布しています。タイミンタチバナ、カゴノキ、ヤマモモ、コショウノキ、イズセンリョウ、カギカズラ、ヤナギイチゴなど、その多くが千葉県付近を北限としている。

中央芝生広場の脇をとおり林道奥谷（おくやつ）線は距離が約4.8kmあり、その先は東京大学千葉演習林の一杯水林道、大多喜町道、林道天津線へとつながり、歩く楽しみが広がる

林道奥谷線は全線舗装され、スタートから1km辺りまでは山が開けた溪流沿いコースのため、景色に変化があり、特に、新緑・紅葉の時期は見応えがある。野鳥も季節ごとに姿や鳴き声が楽しめる。

初夏：センダイムシクイ、オオルリなど。

夏：ヒメハルゼミから始まりニイニイゼミ、アブラゼミ、ヒグラシ、ミンミンゼミなどが順に鳴き出す。特に、ヒメハルゼミの鳴く声は、山全体がうなっているかのように”ウィーン、ウィーン”山全体に響き渡ります。

溪流沿いではカジガガエルの美しい鳴き声が響きわたる。また、6月下旬の夜遅くには漆黒の闇の中、短く明滅するヒメボタルが飛び交う。多いときは、イルミネーションが乱舞するような光景が見られる。

【コース紹介】

管理棟の前に広がる芝生の広場、標高64mの中央広場①が出発点。広場の真ん中にシンボルツリーのケヤキ。芝生で、様々なレクリエーションや自然観察もできる。

林道奥谷線を歩きはじめると、左側②は沢が流れせせらぎの音が聞こえる。その音は、時によって異なり、道沿いにはカエデが植栽され、春の新緑、秋の紅葉は美しく、散策する人の五感を刺激

し、楽しませてくれる。さらに進むと、「つばきの森」③が道沿いに広がる。自生のヤブツバキに加え、様々なツバキやサザンカが植えられ、秋から春にかけて花が咲き誇り、楽しむことができる。

次のポイントは、「緑の森」④。中央広場から1km足らずの距離で、常緑照葉樹の自然の森が見渡せます。林道のすぐ下には第二奥谷ダム（飲料水用）があり、時期にはカルガモやオシドリ、カワセミなどの野鳥の姿も見かけることがある。

⑤「春の新緑・秋の紅葉」の美しい、ダムへ降りる斜面にイロハモミジが植栽されており、春の新緑と秋の紅葉が美しいポイント。夏は日かげを作り、憩いの場となる。⑥林道沿いのビューポイント。眼下には照葉樹の山が広がり、その先には内浦湾、太平洋が望める。

⑦林道終点からさらに広がるコース。林道奥谷線終点。分岐になっていて、右に行くと大多喜町道経由で房総ふれあいの道へ、真っ直ぐは東京大学千葉演習林一杯水林道経由で清澄寺へ、左は林道天津線経由で天津神明宮へつながっている。

①中央広場



④「緑の森」



⑤「春の新緑・秋の紅葉」の美しい、ダムへ降りる斜面



一口メモ

八百年の歴史を有し、房州伊勢の宮として知られる天津神明宮は、20年ごとに鳥居を新しく建てる、式年鳥木曳祭が行われる。また、境内には北限植物、マルバチシャノキが自生していることでも有名。内浦山県民の森から、車で15分。

⑥林道沿いのビューポイント



コースで見られる主な植物等

【木本類】

ウラジロガシ、アラカシ、スダジイ、タブノキ、カゴノキ、ヤブツバキ、ヒサカキ、タイミンタチバナ、カギカズラ、サカキカズラ、ヤマモモ、リンボク、クロバイ、コショウノキ、イズセンリョウ、マンリョウ、アリドウシ、ミヤマシキミ、ナガバノコウヤボウキ、トベラ、アカメガシワ、ヤマザクラ、コバノガマズミ、ヤマグリ、コナラ、ハコネウツギ、ヤマツツジ、ハゼノキ、ムクロジ、イロハモミジ、シバヤナギ、ウリカエデ、イタヤカエデ、イイギリ、キブシ、ムラサキシキブ、クマノミズキ、タマアジサイ、モミ、ヒノキ、スギ、アカマツ、クロマツ、アケビ

【草本類・シダ類】

ヒガンマムシグサ、ヤマノイモ、カンアオイ、センニンソウ、ホタルツル、ツツラフジ、エビネ、ミヤマウズラ、ケイワタバコ
ウラジロ、コシダ、カニクサ、ハコネシダ、オオバインアモトソウ、ホラシノブ、ホソバカナワラビ、コモチシダ、マメツタ